



2022年 表彰式



2022年 最優秀賞者メッセージ朗読

平和の花束セレモニー

平和への願いと 不戦の誓い

先の戦争において、我が国はもとより、多くの国や地域の、かけがえのない幾多の命が失われました。尊い命が失われたことや、家族を失った方々の悲しみ、そして、筆舌に尽くしがたい戦争による苦しみを体験された方々の辛い記憶や思いは、決して癒えることはありません。「二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。」何より、「平和を大切にしていかなければならない。」これは、私たちの共通する思いです。

鹿屋市には、鹿屋海軍航空基地や串良海軍航空基地のあったところであり、様々な戦争に関する思いや遺跡が残っています。戦後77年目を経た今日、私たちは、このような戦争遺跡や体験等を通して、それらに基づく平和への思いを世代を超えて受け継ぎ、より一層平和な世界を築いていく必要があります。

平和の花束については、市役所ホームページもご覧ください。



076

平和の花束

世界平和を願う児童・生徒の「平和へのメッセージ」を鹿屋から世界に向けて発信し、その思いを届け、多くの人に平和や人権について考える機会を提供するという趣旨のもと、平成26年度から「かのや未来創造プログラム『平和の花束』事業」として取り組んでいます。

(主な取組)

- ・ 「平和へのメッセージ」の募集
- ・ 「平和の花束」セレモニーの開催
- ・ 本人の朗読によるラジオ放送
- ・ 記念誌の作成

それぞれの内容の詳細については、次のとおりです。

○ 「平和へのメッセージ」の募集

小・中・高等学校の児童生徒から「平和へのメッセージ」を募集し、日本語部門（小学5・6年生の部、中学生の部、高校生の部）では、それぞれに最優秀賞者、優秀賞者、特別賞を決定しています。

令和3年度からは、英語部門を新設し、メッセージを募集しています。小・中・高校生に加え、令和4年度は、台湾からも作品が寄せられました。

○ 「平和の花束」セレモニーの開催

第1部では、「平和へのメッセージ」入賞者の表彰



2017年講演会 千 玄室氏



ラジオ放送 朗読録音



記念誌

と最優秀賞受賞者本人による朗読を行います。

第2部では、「平和を考える」シンポジウムや講演等を行います。過去の講演等については次の通りです。

2015	一般社団法人アジア支援機構代表理事	池間 哲郎 氏
2016	落語芸術協会理事	桂 竹丸 氏
2017	裏千家利休居士15代前家元	鵬雲斎 千 玄室 氏
2018	鹿屋市平和学習ガイド戦跡調査員	迫 睦子 氏
2019	豊の国 宇佐市塾塾頭	平田 崇英 氏
2022	NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会	東川 隆太郎 氏

○ 本人の朗読によるラジオ放送

各部門の最優秀賞者1名及び、鹿屋市内小・中・高等学校の代表者1名による朗読を、MBCラジオで年間40回程度放送しています。

○ 記念誌の作成

「平和へのメッセージ」入賞作品やセレモニーの取組、戦跡の紹介や戦争体験談等を掲載した記念誌を作成し、県内外の学校や教育委員会、協賛してくださった方々に配布しています。

平和の花束は、本事業に賛同する各種関係団体によって組織される実行委員会により、鹿屋の町全体での取組となるよう運営しています。また、ラジオ放送、記念誌の発行等は、各種関係団体、協賛企業の御協力により行われています。

平和のメッセージ

太平洋戦争末期に、日本で最も多くの若者が特攻隊員として飛び立ったこの鹿屋の地から、平和へのメッセージを発信する「かのや未来創造プログラム 平和の花束」は、平成26年度からスタートしました。

「平和の花束」において、小・中・高等学校から寄せられた平和へのメッセージは、毎年多くの応募があり、令和4年度は、九州管内及び兵庫県、台湾から4,148点の作品応募がありました。

毎年、応募作品には、児童生徒が戦争遺跡や戦争体験談などに触れる体験を基に、戦争の事実や現代社会が抱える問題等と向き合い、平和や命の大切さについて考えたこと、平和な未来を創るために今を生きる私たちに何ができるか、といったことが自らの言葉で綴られ、児童生徒の平和への熱いメッセージを発信しています。



洋画



日本画



陶芸

市民講座

市では、主に公民館（中央、花岡地区、串良、上小原分館、細山田分館）、学習センター（東地区、西原地区、大始良地区、田崎地区、高須地区）、コミュニティーセンター（吾平、輝北）、高隈地区交流促進センター、リナシティかのや、勤労者交流センターにおいて、各種講座を行っています。

文化系では料理や歌、楽器、絵、陶芸、花、習字、語学等、運動系ではヨガやストレッチ、ダンス等の内容で、初級者向けから中級者向けの講座を毎年少しずつ内容を変えながら、実施しています。

年間を通して実施するものや、夏休み冬休みに子ども向けのもの、短期で開催するものなど皆様の好奇心とやる気を刺激する内容を色々と思いを凝らせて提供していますので、最寄りの公民館等にお問い合わせください。

077

催物・文化

鹿屋市では、文化の香り高いまちづくりと市民文化の振興・伝承のために、市民の皆さんが主体的に文化活動を行いやすい環境づくりやひとり1スポーツ1文化活動の推進、各文化芸術団体等の支援、市民が気軽に生の芸術に触れられる文化事業の充実、子どもの頃から様々な文化芸術に親しむための環境整備などに取り組んでいます。その中で、継続的に行われている代表的なものを紹介していきます。

○鹿屋市美術展

毎年、大隅美術協会が主体となり、洋画、日本画、工芸、写真、手工芸、デザイン、彫刻を対象とした総合美術展を開催しています。

これは当初大隅美術協会展として行っていたものを、1983（昭和58）年に大隅美術協会展第15回展から鹿屋市が共催となり、第1回鹿屋市美術展として開催しています。当初の会場は、鹿屋市文化会館、中央公民館、市役所7階、桜デパートなど様々な場所で行っていましたが、第26回展からリナシティかのや2階ギャラリーをメイン会場として実施しています。

2022（令和4）年1月に第40回展を迎え、大隅の芸術文化活動の振興に寄与すべく今後も開催していく予定です。



彫刻



写真



手工芸

○鹿屋市の文化協会

鹿屋市には、鹿屋市文化協会、吾平町文化協会、串良町文化協会、輝北町文化協会と各地域に文化協会があります。所属団体は、演劇・詩吟・舞踊・書道・華道など多岐にわたり、近年では、ヒップホップやベリーダンスといったダンスに関連した団体も多く所属しており、時代の流れとともに、多様な文化芸術活動に励んでいます。

毎年、それぞれの地域において、文化芸術活動の推進や、貴重な伝統文化の継承に寄与しており、特色ある文化祭を開催しています。文化芸術に興味のある方は、ぜひ、地域の文化祭に足を運んでみてください。

○自主文化事業

文化会館、リナシティかのやにおいて、落語、喜劇、舞踏、ポピュラー音楽、邦楽、雅楽能楽、歌舞伎、クラシック音楽、バレエ、オペラ、演劇など市民の皆様にも多種多様な文化に触れる機会を設ける事業です。

○学校芸術鑑賞事業

子どもたちが本物の文化芸術に触れる機会として、市内の小中学校において開催している事業です。内容としては、県内外から出演者を招き、能楽などの伝統芸能や各種音楽鑑賞をはじめ、郷土愛を育むため、鹿屋の郷土芸能を鑑賞・体験する事業も行っています。

鹿屋市少年少女合唱団

リナシティかのやの芸術文化学習プラザにおいて、子どもたちの音楽文化の向上と音楽を愛する心を育むことを目指し活動しています。



ポップカルチャー

リナシティかのやで行っている自主文化事業の中で、若者を中心に人気のある事業が2013（平成25）年から行っている「りなかる！」&「りなメロ」などです。

コスプレ、痛車、アニソン、声優などをキーワードに、ポップカルチャー&サブカルチャーに焦点を当てたイベントで県外から参加する方も多くいらっしゃいます。毎年、少しずつ趣向を変えて、常に今の若者を捉えた催しを目指しています。



踊ります。(練習風景)



歌い奏めます。(練習風景)

ヒメとヒコとは

「高校生ミュージカルヒメとヒコ」は舞台の出演者が全員高校生の鹿屋で生まれたオリジナルミュージカルです。2008(平成20)年より毎年上演されており、2022(令和4)年現在で15周年を迎えました。

舞台に立つキャストは大隅の各地域から、公募で集まり、毎年2月に行われる年1回の公演に向けて、1年間稽古に励みます。稽古では演技や歌だけでなく、舞台に必要な基礎体力を身につけるためのランニングや筋力トレーニングも取り入れています。また、12月末に実施する合宿では、1泊2日で高隈山登山に挑戦。演技力や歌唱力だけでなく、精神面も鍛え、心身ともに成長しながら2月の公演を目指します。

078

高校生ミュージカル

○ヒメとヒコ

ストーリー

ごく普通の高校生のマナは、変わらない毎日に少し退屈しながら、楽しい高校生活を送っていた。そんなある日、マナは同じ夢を繰り返し見るようになる。島の人々が歌ったり、踊ったりする楽しそうな輪の中に、いつもとは違う自分がいる。居眠りから目が覚めたマナは友人達に呆れられながら、学校内のあるウワサを耳にする。

『姫子先生が誰かに恋をしている!』

相手は学校一のモテ教師、歴史の昭彦先生。大好きな姫子が昭彦に想いを寄せていることが信じられないマナは姫子の本心確かめることに。そこで姫子の純粋な想いを知ったマナは、姫子の恋を全力で応援することを決意する。昭彦から郷土芸能部に誘われていたマナは入部を決意し、部員と共にトレーニングに出かけるふりをして、姫子と昭彦が二人きりになるチャンスを作るが、姫子の告白に戸惑った昭彦は自分の想いを伝えられず、姫子を傷つけてしまうことに……。ある日、学校の授業で大隅の歴史を学ぶために訪れた古墳で、マナは姫子を振った昭彦に詰め寄る。昭彦の優柔不断な態度に呆れたマナは、昭彦を置いて一人



クラスでの様子（劇中の一場面）



ヒコを介抱するヒメ（劇中の一場面）

「ほこら」の奥に向かった。好奇心旺盛なマナは、たどり着いたほこらの中を探索し、石でできた棺の中で寄り添うように納められていた二体の遺骨と一本の太刀、そして勾玉で飾られた首飾りを見つける。マナは首飾りを手にし、マナを探しに来た昭彦と帰ろうとした瞬間、白い鳥の化身に誘われ、別の世界へと迷い込んでしまう。

たどり着いたのは夢で見ていた古代の奄美大島だった。平和を愛し、つながりを大事にする結ゆいの精神で固く結ばれた人々と暮らし始めたマナは、姫子にそっくりな島の巫女「ヒメ」と、島の海岸に流れ着いた昭彦にそっくりな「ヒコ」に出会い、大隅と奄美のつながりを体験していく。

だが、穏やかな日々は突如終わりを告げる。ヤマトの使者の侵略によりヒメを奪われたヒコは奪還を決意し、兵を率いてヤマトとの戦へ出陣する。戦うことを決意したヒコを必死で止めるヒメ。

互いを守ろうとする想いは交わることなく、悲劇へ向かって走り出す。ヒメとヒコ、そして姫子と昭彦を待ち受ける運命とは？



「大隅大好き」と叫ぶキャスト全員の姿が名物となっています。

ヒメヒコ会とは

キャストの保護者やOBの保護者、そして制作スタッフで構成されているヒメヒコ応援団が「ヒメヒコ会」です。ひたむきに頑張るキャストの姿を見て、ヒメとヒコの活動を盛り上げようと、たくさんの方が協力・応援してくれています。

夏になるとヒメヒコ会が中心となり、キャストの衣装代・移動費・合宿費の為の資金活動を行っています。

また、キャストと同じように、ヒメヒコ紹介のパンフレット作成に取り組んだり、ヒメヒコのキャストと同じ様に支える人たちも自分達にできることを実践しています。



くしら桜まつりジョギング大会



南日本クロスカントリー大会inきほく

国体の開催

1972（昭和47）年に本県で第27回国民体育大会「太陽国体」が開催され、鹿屋市ではバレーボールとボートが開催されました。

そして、2023（令和5）年には特別国民体育大会「燃ゆる感動がごしま国体」・特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動がごしま大会」が開催されます。

本市では、「かごしま国体」

- ・スポーツウェルネス吹矢（デモンストレーションスポーツ）
- ・ローイング（全種目）
- ・バレーボール（成年女子）
- ・自転車（ロード・レース）「かごしま大会」
- ・バレーボール（精神障害の部）

以上が開催され、全国から多くの選手等が訪れ白熱した試合を展開します。

079

各種スポーツ大会等 1

鹿屋市は、「スポーツを通じた活力ある社会の実現」を目指しており、鹿屋体育大学などの各関係機関や地理的特性を生かした多くのスポーツイベントなどを行っています。

各種スポーツ大会等1～3では、そのことについて紹介します。

〇くしら桜まつりジョギング大会

美しく咲き誇る桜並木を駆け抜け、春の喜びを感じながらスポーツに対する関心を深めるジョギング大会です。

会場となる平和公園は、1976（昭和46）年から数年間に渡り、関西の地で働く串良町出身の方々によって、東西南北3kmにわたり、桜（ソメイヨシノ）の苗木が植樹され、現在は大隅の桜の名所となっています。

ジョギング大会は、1km、2.5km、5km、10kmと分かれており、子どもから大人まで、体力に合わせて参加できます。





美里あいら運動会

○南日本クロスカントリー大会inきほく

起伏のある輝北うわば公園の地形を活かした、コースの高低差が35mもあるクロスカントリーの大会で、九州一過酷なコースと言われています。

会場となる輝北うわば公園は標高550mの高台にあり、鹿児島湾に浮かぶ桜島や霧島連山、太平洋や高隈山など360度の大パノラマを眺めることができます。



また、環境省主催の星空継続観測（スターウォッチングネットワーク）では、過去7回日本一星空がきれいに見えるところという結果が報告されるなど、壮大な星空や雄大なロケーションを楽しめます。



うましさと 美里あいら運動会

吾平地域住民の体力向上を図り親睦と交流を深め、スポーツ文化の高揚と明るく豊かな郷土づくりを目指し実施しています。

- ・対抗方法
町内10町内会対抗
- ・種目
かけっこ、各種リレー、
玉入れ合戦など

美里あいら敬老会

吾平地域に住む高齢者の方々の長寿を祝福し、その貴重な知恵と経験を美里吾平のまちづくりへ活かすことを目的に、1909（明治42）年から続く歴史ある美里あいら敬老会を開催しています。

- ・開催日 10月末の日曜
- ・場 所 吾平振興会館





かのやマウンテンバイカーズfes



ツール・ド・おおすみサイクリング大会

オリンピック

鹿屋体育大学からは、数多くのオリンピックが誕生しています。

鹿屋体育大学と関係のあったオリンピックはこれまで17名となっており、中でも、鹿屋体育大学でトレーニングを重ね、在学中や卒業後にオリンピック代表となった「津曲勝利：バレーボール」「柴田亜衣、高桑健、高鍋絵美、高橋航太郎：競泳」「萩原麻由子、内間康平、前田佳代乃、塚越（山本）さくら、橋本英也：自転車競技」「宮田悠佑：カヌー」以上の11名の選手は鹿屋体育大学の競技力向上の面での大きな成果ということで大学HPにも掲載されています。全17名について詳しく掲載されているので下記QRコードからご覧ください。



080

各種スポーツ大会等2

○ツール・ド・おおすみサイクリング大会

市制60周年を記念し、海上自衛隊鹿屋航空基地で開催される「エアーメモリアルinかのや」のスポーツイベントの一つとして、2001（平成13）年に第1回大会が開催されました。

本市を中心に、大隅半島の雄大な景観と豊富な食材を生かしたご当地グルメを味わいながら走ることができるサイクリングイベントとして、現在では全国のサイクリストに認知されています。

毎年、上級者から初心者、家族連れまで楽しめる複数のコースが企画されます。

地域密着型プロサイクリングチームである「CIEL BLEU KANOYA」や全国を舞台に活躍する「鹿屋体育大学自転車競技部」の選手たちと一緒に走ることができるのも、本大会の魅力の一つです。





CIEL BLEU KANOYA
(シエルブルー鹿屋)



MORI ALL WAVE KANOYA
(モリオールウェーブ鹿屋)

○CIEL BLEU KANOYA

2015(平成27)年に本市初の地域密着型プロサイクリングチームとして発足しました。

発足当初は、鹿屋体育大学自転車競技部の選手として活躍した、山本さくら選手(旧姓:塚越)と堀みなみ選手(旧姓:上野)の2名が所属していましたが、その後卒業生3名が加わり、オリンピック選手を輩出するなど、国内外の各種大会で活躍する一方、本市で開催されるサイクリングイベントにも積極的に参加し、地域密着型プロチームとして本市の自転車競技の発展や自転車を活用したまちづくりに寄与しています。

2021(令和3)年からは、ロードレース主体のチーム体制へ一新し、国内最高峰のロードレースツアー大会である「Jプロツアー」へ参戦しています。

○かのやマウンテンバイカーズfes

九州でも珍しいマウンテンバイクに特化した施設「霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパーク」を会場として毎年8月(山の日前後)に開催されます。

120分の耐久周回レースや子ども向けのキッズアタックのほか、夜にライトアップされたコースを走るナイトクロスカントリーなど、特徴的なカテゴリーもあります。

MORI ALL WAVE KANOYA

2021(令和3)年に本市輝北町を拠点とする女子プロソフトボールチームとして発足しました。

2019(令和元)年の全国クラブ女子選手権において準優勝したことにより、プロリーグへの加盟権を取得し、2021(令和3)年から日本女子ソフトボールリーグへ参戦しました。

リーグ参戦初年度となる2021シーズンは、開幕戦から勝利を積み重ね、最終的には9勝1敗の成績で、見事3部リーグ初参戦初優勝という素晴らしい結果を収めました。

「人口減少が進む地方の活性化」「女性活躍の推進」「県民全体へスポーツの魅力を伝えていくこと」などを理念として活動しています。



宮下相撲
(乳幼児健康祈願土俵入)



宮下相撲
(小学生低学年の部)

かのやローズヒル駅伝大会

かのやローズヒル駅伝大会は、鹿屋市内を一周する「サンロード鹿屋」駅伝大会を前身として、鹿屋市市制施行5周年を機に、会場を霧島ヶ丘公園に、名称を「かのやローズヒル駅伝」に変更し、市全域で取り組む駅伝大会として、平成22年から始まりました。

市内の小学校区対抗駅伝競技を通して、市民が一体となり、健康づくりや優秀な選手の育成など、スポーツ振興や地域の活性化に寄与することを目的に、令和4年度までに13回開催されています。

市内小学校区を対象に、13区間21.2kmのコースを小学生から社会人までの代表者がたすきをつなぎ、健脚を競い合います。



081

各種スポーツ大会等3

○みやした 宮下相撲

美里あいら宮下相撲（別名：焼け相撲）大会は、1898（明治31）年に町中心街で発生した大火（被害戸数7戸）を教訓に、町民を元気づけることと、このような大火が二度とないように祈願の意を込めて始まったものであり、広く地域住民に相撲を普及させることで、健康で丈夫な身体と豊かな心を育てることと、青少年の育成と明るい郷土づくりに資することを目的に、令和元年度までに121回が開催されています。

○のざと 野里相撲

野里町の子鳥神社で開催される野里消防大相撲大会は、戦前は青年部で五穀豊穡を願って行われていましたが、戦争で一旦途絶えてしまいました。しかし、戦後、疲弊した地域の活気を取り戻すために、1949（昭和24）年に地元消防団が中心となり第1回大会が行われました。以来、現在まで開催されています。（途中、社会状況により中止もありました。）

再開当初は、地元の青年たちが中心となり取組が行われていましたが、近年は子供の取組も増え、豊作祈



野里相撲



串良町内一周駅伝大会

願に子供たちの健全育成、地域の安心安全の願いを込めた地元の大切な催しとなっています。

毎年9月の彼岸の中日に開催され、神社の境内に消防団で土俵づくりを行い開催しており、近年でも毎年80名程度の大小の力士たちが熱戦を繰り広げています。また、男児の土俵入りも毎年盛況を得ています。

地域の方以外の参加や、飛び入りもあるようなので、我こそはという方は、是非、参加してみたいはいかがでしょうか。

串良町内一周駅伝大会

串良町内一周駅伝大会は、住民の体力向上と健康増進の目的で1958（昭和33）年に始まり、今では60回を超える伝統的な大会です。

当初は、串良町青年団が主催していましたが青年団の衰退に伴い実施体制を変え、現在では地域おこしグループ『串良がんばる会』が主催しています。

大会は、一般、中高生、小学生と3つの部門が設けられ、子どもから大人まで幅広い年齢層のチームが参加して大会を盛り上げています。

スタートは串良ふれあいセンター前で、その後、中郷～下中へと北上し、細山田小中学校を通過して南下、十三塚～下方眼を抜けて下小原から串良総合支所前がゴールという全13区間、計23.4kmのコースで健脚が競われています。

例年、2月初旬に開催されることから、串良地域の新春の風物詩として地域住民に愛される大会となっています。

第67回 野里消防大相撲大会

令和元年9月23日 小島神社境内

《プログラム》 主催 野里消防分団

順番	種目	出場者	予定時刻
1	神事	中島宮司	8:00
2	土俵祭り	中島宮司、一年生	8:30
3	学年別個人戦	小学生全学年	8:40
4	学年別抜き相撲 各学年5人抜き・3人抜き	小学生全学年	9:40
5	チャンピオン決定戦	6年生選抜	10:40
6	優勝旗返還	前年度優勝子供会	11:00
7	子供会対抗戦	1チーム5名	11:10
8	中入り 分団長あいさつ 男児の土俵入り	野里分団長 一歳未満の男の子	12:30
9	優勝旗返還	前年度優勝チーム	12:50
10	地区対抗戦	校区内力士 子供2名 大人3名	13:00
11	表彰式		13:50
12	一般対抗お好み相撲	校区内力士 鹿屋市相撲連盟 他	14:00
13	これより三役 大開、開脇、小結	校区内力士	14:30
14	万歳三唱	野里消防後援会長	14:50
15	お楽しみ抽選会		15:00

(資料)
第67回
(令和元年)
プログラム



エアーメモリアルinかのや

イベントカレンダー 【1月～4月】

※令和4年度時点の主なもの

1月

- 【名物あいら木市祭】
吾平市街地
- 【くしら二十三や市】
串良市街地

2月

- 【山宮神社春祭り】
串良町細山田
- 【中津神社鉤引き祭】
上高隈町
- 【高校生ミュージカル
「ヒメとヒコ」】
鹿屋市文化会館

4月

- 【くしら桜まつり・
ジョギング大会】
平和公園
- 【中岳（吾平富士）山開
き登山】
吾平町神野
- 【エアーメモリアルin
かのや】
鹿屋航空基地
- 【かのやばら祭り春】
（～5月末まで）
かのやばら園

082

鹿屋市の祭り1

本市では、市民の皆さまが様々なイベントに参加し、鹿屋市に愛着を感じたり、地域、商工業などの振興やPRの一助となり、地域の活性化や観光の推進に役立ってほしいなどの思いを込めて、年間を通して様々なイベントを開催しています。鹿屋市の祭り1～3では代表的なものや、地域に古くから続く各種イベント（祭りなど）を紹介していきます。

○かのやばら祭り

「かのやばら祭り」は、バラの見頃である春のシーズン（4月下旬～6月中旬）と秋のシーズン（10月下旬～11月）の年2回「かのやばら園」で開催されるイベントです。期間中の土日祝日を中心に様々なイベントがあり、県内外から多くの方々が来園します。地域が一体となって実施し、地域の自立と住民の活力を呼びおこす「ばらのまちかのや」を創造することを目的としています。

○かのや夏祭り

「かのや夏祭り」の起源は「鹿屋青年実業団」が昭和初期に始めた祇園祭にあるとされています。1963（昭和38）年には「ばか踊り」が誕生し、「かのやハンヤ踊り」「曾の国の火祭り」と名称を変えながら、現在は「かのや夏祭り」として多くの方々に親しまれています。



鹿屋市農業まつり



かのや夏祭り（本祭）

「かのや夏祭り」は、中心市街地を踊り連が練り歩く「本祭」と「花火大会」からなり、「本祭」は商売繁盛、五穀豊穡を祈願した祇園祭の精神を受け継いでいます。

○エアーメモリアルinかのや

「エアーメモリアルinかのや」は、海上自衛隊鹿屋航空基地内で航空ショーをメインに開催するイベントです。これは、海上自衛隊鹿屋航空基地の開隊40周年を記念して、自衛隊・地域住民・行政の協力のもと、1994（平成6）年から開催しており、県内外から多くの航空ファンが来場します。

「航空ショー」のほか、佐世保音楽隊の演奏会や、航空機の展示など、様々なイベントを行います。

○かのや農業まつり

地域農業の豊かな実りに感謝し、生産者と消費者の交流を通じて生産者の生産・経営意欲の向上と消費者の農産物への理解を深めるとともに地域農業の活性化を図ることを目的に実施しています。

【主な内容】

- ・展示販売（各種農産物等）
- ・体験イベント
- ・食イベント
- ・各種ブース設置
- ・農業機械展示

イベントカレンダー 【5月～8月】

※令和4年度時点の主なもの

5月

【リナフェスタ】

リナシティかのや

【南日本クロスカントリー
inきぼく】

輝北うわば公園

6月

【ひらぼうホテルの里
ほたる祭り】

輝北町平房

7月

【かのやマリンフェスタ】

高須・浜田海岸

【串良夏祭り】串良市街地

8月

【美里吾平夏祭り】

吾平市街地

【かのや夏祭り「本祭」】

鹿屋市街地

【かのや夏祭り「納涼花火
大会」】

鹿屋港





星のふるさと輝北まつり



美里あいら夏祭り

イベントカレンダー 【10月～12月】

令和4年度時点の主なもの

10月

【大隅湖レイクサイドフェスティバル】大隅湖
【高須潮干狩り大会】高須海岸

11月

【かのやばら祭り秋】かのやばら園
【星のふるさと輝北まつり】輝北運動場
【くしら黒土まつり】平和公園
【美里あいら農業祭】吾平中央公園

12月

【冬華火】リナシティかのや
【クリスマスファンタジーナイト】かのやばら園

毎週土曜日

【かのや土曜朝市】イベント広場

不定期

【大隅花マルシェ】市内外

083

鹿屋市の祭り2

〇くしら桜まつり

1985（昭和60）年から特攻基地跡の平和公園の桜をPRするため、桜の開花状況に合わせ開催しています。ジョギング大会とスポーツ大会、ステージショーなど各種イベントを実施し、祭り期間中は夜桜ちょうちんの点燈もあります。



くしら桜まつり

〇くしら黒土まつりくつち（串良農業祭にいなめさい）

1976（昭和51）年から新嘗祭として始めた伝統的農業祭りです。平和公園において、農畜林産物の生産者直売、農機具の展示即売、大抽選会等の催し物等があります。

農業者交流により農業者相互の親睦と連帯感を深め、更には消費者との交流により生産者と消費者が相互理解を深め合うことを目的に開催しています。



くしら黒土祭り



例年5,000人ほどを集め、湖面に映える花火とレーザーの共演は必見！

大隅湖レイクサイドフェスティバル
笠野原台地を干ばつから守り、畑作を振興するために1967（昭和42）年に完成した「高隈ダム」からなる「大隅湖」。その水の恵みと先人たちの苦勞に感謝し、高隈地区が誇る豊かな自然を市内外に周知し、地域の活性化と観光振興のため、1990（平成2）年にはじまった「あじさい祭り」から続く「大隅湖」での祭り。地域おこしグループが主催となり、2006（平成18）年から現在の祭りの形となりました。

○くしら二十三や市

およそ300年前の江戸時代後期から、旧暦の12月23日に正月用の物々交換の場として開かれた市です。大隅の春の訪れを告げる風物詩として毎年1月下旬の土曜日・日曜日、串良町商店街周辺の道路を歩行者天国として行われ、県内外の出店者や町内商工業者など約300店舗が一堂に集まり、花き・刃物類・日用品・雑貨等を販売します。ステージイベント、子どもが遊べるイベント等も開催されます。



くしら二十三や市

○名物あいら木市祭

吾平に新春を告げる名物祭。鶴戸神社前から吾平町麓交差点までの歩行者天国では、花木販売をはじめ舞台演芸や抽選会など楽しいイベントが開催されます。



あいら木市

美里あいら農業祭

宮下相撲大会と同時開催され、地域農業の豊かな実りに感謝し、生産者と消費者の交流による地域経済の活性化のために開催します。

美里あいら夏祭り 花火大会

地域に根付く伝統や文化の継承発展を目的に開催しており、鶴戸神社からの神輿担ぎや月見橋上流左岸での花火大会を行っています。また、前日には鶴戸神社で美里あいら伝統芸能祭が、八月踊り、そば切り踊り、棒踊りなど、地域の伝統芸能を広く知ってもらい、次世代へ継承することを目的に開催されます。

星のふるさと輝北まつり

毎年11月に輝北運動場と輝北コミュニティセンターで同時開催される輝北地域最大のイベントで、歌謡ステージや舞台発表、地元特産品の試食・販売など多くの催しが行われ、多くの観客でにぎわいます。



鬼火焚き（吾平）



鬼火焚き（輝北）

うす 臼起こし

正月に関係する行事には、鬼火焚きの他に「臼起こし（こたこん）」があります。12月31日の夕方、庭にきれいに掃除した臼を出します。一升ますの中に白米5合を入れて白い紙で覆い、その上に餅を奇数個、だいたいを1つ、子持ち里芋を1つ、ゆずり葉を1枚入れます。この一升ますを臼の中に入れ、箕みでふたをします。箕の上には手杵てぢりをのせ、歳神様へのお供え物を飾ります。臼起こしの歌も歌われます。そして元日の夜中から2日にかけて、年男の若者たちが徹夜で各戸の臼を回って、杵で臼のふちをたたいて臼を起こします。元日に臼を休ませることで臼をねぎらい、臼を起こすことで1年の幸せを願います。現在では吾平町などで、趣おもむきを変えながらも行われています。



084

鹿屋市の祭り3

○伝承されてきた祭り

皆さんは、季節の行事と聞いて何を思い浮かべますか。節分、ひなまつり、七夕、お彼岸など、日本古来の行事がたくさんあります。その他にもハロウィンやクリスマスなど、海外の行事も日本に浸透しつつあります。では昔の鹿屋の人々は、どのような季節ごとの行事やお祭りを行っていたのでしょうか。

1月に行われる行事には、五穀豊穡や無病息災など1年の幸せへの願いが込められています。1月15日（所によって7日）に、河原や田んぼでは「鬼火焚き」が行われます。生の竹を立て、持ち寄った門松やしめ飾り・書き初めなどを焼きます。竹に火が付くと爆竹のような大きな音をたてながら燃え上がるので、とても迫力のある行事です。火が弱くなると、子供たちはその火で餅を焼き、口の周りを真っ黒にしながらかべます。この餅を食べると、その年は病気になるまいと言われているそうです。

この鬼火焚きは平安時代からある全国的な行事で、この地域では「おねっこ」や「どんど焼」とも呼ばれます。昭和初期～中期、残り火による火事や子供たちの火遊びを心配して、鬼火焚きを中止にする傾向がありました。しかし、ふるさとの伝統行事とし

川東町光同寺水神祭



水神様の掛軸



社（やしろ）



古文書 文化の元号（江戸時代）

て復活させようという活動があり、現在は川西町などで行われています。

また、鹿屋には季節の行事の他にも「講」や「祭り」があります。講とは、地域に住む同じ信仰や目的を持った人々が集まって組織・運営する団体のことです。健康長寿を願う「庚申講」、田の神様に豊作を願う「田の神講」など、他にもたくさんの講があります。

その中のひとつに、輝北町で^{れんめん}連綿と引き継がれている「御鏡講」があります。御鏡講は、一向宗を信仰する人々の集まりです。薩摩藩の一向宗弾圧の厳しい取締りの中でも、役人の目を盗んで講を維持し続けたそうです。その努力の跡は、市指定文化財「朝倉のかくれ念仏洞」で見ることができます。

鹿屋の祭りといえば、夏祭りやばら祭りが思い浮かびますが、他にもたくさんの祭りがあります。その中のひとつである「水神祭り」は、豊作を祈り感謝する祭りです。水は農業や飲料水、水害など私たちの生活に大きな恵みと被害をもたらします。水神様を大切に思う気持ちが、信仰や祭りに表れています。

○その他の祭り

ここまで、代表的なものや、市が大きく関わって開催されている祭りなどを紹介してきましたが、鹿屋市には他にも町内会や商店街などが実施している祭りもあります。ぜひ足を運んでみてください。

ほんがま 盆釜

お盆の行事は、以前は旧暦の7月13～15日に行われていましたが、現在では8月13日～16日に行われます。この期間の風習のひとつに、「盆釜」があります。女の子が小さな釜や鍋を借りて庭先で食事を作る行事で、料理が上手になるようにという願いが込められています。燃料には、精霊迎え火用の松のツガを使用しました。作った食事は柿の葉によそい、庭に敷いたムシロや立木に竹を張った「ユカダ」の上で食べました。この間、男の子は凧を飛ばして遊んだそうです。

現在は高隈町などで盆釜を体験する行事が行われ、老若男女が参加しています。





簡易宿泊所なかん岳庵



ウォーターパール館

簡易宿泊所なかん岳庵^{だけあん}

旧神野小学校の校長住宅を簡易宿泊所として2020（令和2）年にリニューアルオープン。手頃な料金で10名まで宿泊できます（10名様最大5,500円）。

中岳トレッキング

神野地区の南端にある中岳（標高677m）は、その美しさから「吾平富士」とも呼ばれています。地元町内会の方々により登山道も整備され、また4つの滝をめぐるコースも楽しむことができます。



085

観光名所 1

○吾平自然公園

吾平自然公園は、県道544号と吾平川沿いに位置し、山と、谷間を利用した農地に囲まれている公園です。周辺には吾平山上陵や県立大隅広域公園、湯遊ランド、「神野」山の学校キャンプ場などの観光施設もあることから、吾平町の観光ルートの一角として整備されました。吾平町神野地域のイメージである「清流」を感じられる立地に存在することから、「せわしなさ」「息苦しさ」といった都会の喧騒から解放され、「ゆったり」「心地よさ」といった雰囲気の中で過ごすことができます。園内には、四季の移ろいを感じられる樹木や、「清流」を視覚・聴覚など様々な感覚によって体感することができる水路、ウォーターパール館、水車小屋などの施設が整備されています。また、始良川が隣接していることから、夏には水遊びに来る来園者で賑わっています。

ウォーターパール館は、水に特殊な音波を与える水玉発生装置と専用の特殊ストロボによって水が空中で止まったり上昇したりしているような動きに見える不思議で神秘的な水演出を見ることができる施設です。



吾平自然公園周辺の景色



神野地区での登山に関する
お問い合わせ先
・美里吾平コミュニティ協議会
電話：0994-58-6566

○“神野”山の学校キャンプ場

廃校となった旧神野小学校の校庭をキャンプ場として2019（令和元）年夏にオープン。テント、BBQセットなどのレンタルも充実しており、キャンプ道具がなくても、家族や仲間と気軽にアウトドア体験ができます。



四極それぞれの証明書を4枚揃え合わせたその裏面

大隅半島に 唯一無二の場所

○内之浦ロケット基地

正式名称は鹿児島宇宙空間観測所で、天文観測衛星や惑星探査機を打ちあげています。

鹿児島県にロケット発射場があるのは、赤道に近いこと、東側に発射しやすい（東側が開けている）などの理由からだそうです。

せっかく近くにある立派な施設に一度行ってみたいかがでしょうか。

○本土最南端（佐多岬）

大隅半島には本土最南端である佐多岬があります。

「日本本土四極踏破証明書」を御存じでしょうか。これは、本土の「最南端」「最北端」「最東端」「最西端」で、発行される統一した様式の証明書です。

4つの端っこ内の一つは既に手に入れたようなものなので、あと3か所ですね。



2022グランプリ「夕暮れのひととき」



2021グランプリ「黄金の渚」

ユクサおおすみ海の学校の絶景



180度以上が海！



プライベートビーチ！



夕日とツリーハウスを
バックにキャンプ！

086

観光名所 2

○ユクサおおすみ海の学校

鹿屋市の鹿児島湾沿いの県道68号線沿いを、素敵なオーシャンビューを堪能しながら走っていると、それは見えてきます。

120年の歴史をもち「日本一海に近い小学校」と言われていた鹿屋市立菅原小学校をリニューアルした体験型宿泊施設が「ユクサおおすみ海の学校」です。

学校であった雰囲気はそのままに、どこか懐かしさを感じさせる空間、周りを見渡すと、目の前には美しい海、山、空、素敵な景色が、ここに 있습니다。

サイクリングやカヤックなど、おおすみの自然を堪能できる様々な体験、BBQや磯遊びエリア、学校の雰囲気そのままの体育館や運動場など、豊富な体験アクティビティが用意されています。

そして、宿泊は全室オーシャンビューとなり、少人数のご家族やご夫婦・カップル向けのお部屋（職員室・校長室）、大人数の御家族・グループ向けのお部屋（教室）が準備されています。

詳しくは、右記QRコードからHPをご覧ください。





2022グランプリ「ベルベットな朝」



2021グランプリ「恋人の聖地」

○かのやばら園

かのやばら園は、8haの広大な敷地に、1,500品種35,000株のバラや四季折々の花々が植栽されている日本最大規模を誇る「ばら園」として、2006（平成18）年にグランドオープンしました。

開花期の春と秋には「かのやばら祭り」が開催され、県内外から多くの観光客が訪れる本市はもとより大隅地域の観光交流拠点施設となっています。

また、全国の観光地の中からプロポーズにふさわしいロマンティックなスポットとして、「恋人の聖地」に認定されています。

園内の見どころ

カラーガーデン

区画ごとに異なる色のバラが植栽してあるエリア。中央のハート型に誘引してあるバラは絶好のフォトスポット

つるバラトンネル

春限定で出現するエリア。トンネル一面に広がる優しい色と甘い香りのバラに全身が包まれます。

入園料

大人：630円 小中高生：110円

大人料金は、開花状況により変動します。

2023（令和5）年3月31日現在



高隈山系登山

本書の中にも、何度となく出てくる高隈山系は、登山で堪能するのもお勧めです。

鹿屋市観光協会が示している代表的な登山ルートをはじめ、垂水側の大野原林道から登り、大笹柄岳登山口に進むコース、鳴之尾林道から御岳山頂を目指すコース、峰越林道から大笹柄岳山頂を目指すコース、ますヶ淵下登山口から刀剣山を目指すコースなどがあります。

小中高生の頃に高隈山系に登山をされた方も多いと思いますが、社会人になってからの登山も視点が変わって新鮮な感動が得られるでしょう。

なお、登山の際には鹿屋市観光協会（0994-41-7010）や、国立大隅青少年自然の家（0994-46-2222）に連絡をすると、ルートの相談や登山道の地図などが入手できます。



輝北天球館



パノラマサイトと桜島

JIA 25年賞受賞 (日本建築家協会)

輝北天球館及び輝北うわば公園内の木造建築群が、「25年以上の長きにわたり建築の存在価値を發揮し、美しく維持され地域社会に貢献してきた建築」として2020（令和2）年に、JIA25年賞を受賞しました。

この建築群には、宇宙（コスモス）を観察するという目的、この立地、地元生まれでコスモロジーの思想を育んだ建築家の三者が邂逅し、場所の意味を顕在化させることに成功した建築物と言われています。



輝北天球館及び木造建築群

087

観光名所 3

○輝北うわば公園・輝北天球館

「輝北うわば公園」は標高550mの高台にあり、鹿児島湾に浮かぶ桜島、霧島連山、太平洋、高隈山など360度の大パノラマが眺められ、周辺には牧場や風車もあり、異国情緒の漂う場所です。

公園内にはバンガローやアスレチックなども整備されており、県内外から家族連れやキャンパーも多数訪れる公園です。桜島の噴火口を同じ目線で安全に見ることのできるスポットでもあります。

また、環境庁主催の星空継続観測（スターウォッチング・ネットワーク）では、1991（平成3）年冬季から4季連続して、日本一星空がきれいに見えるところに認定されました。

この公園内の一角にユニークな造形が特徴の天文台「輝北天球館」があります。1995（平成7）年に完成し、天体観測ドームには口径65cmのカセグレネ式反射望遠鏡が設置されており、昼間でも美しく輝く一等星が見られます。

天球館内では、館長をはじめ学芸員による天体観測の解説もあり、夜は満点の星空を楽しむことができます。



テントサイトと風車



アスレチックと天球館

ユニークな造形で特筆すべきことは、斜めに突き出たラグビーボール状の物体の内部は、階段席が設けられた研修室となっていますが、その空間の形状は、外から目にした時の形と変わりません。

3本の斜めの柱は室内を貫いて、殻を破り、最後は天に呼びかける花のような形に編まれて、遠くからも目立つシンボルです。

周辺部の複雑な造形は遊歩路で、来訪者が楽しみながら、この地の360度のパノラマに親しめる効果をもたらしています。

8本の柱で支えられた展示室の独特の形も、天体観測という機能にもとづいた上部の半球ドームと違和感なく溶け込んでいます。

木造建築群は、それぞれの命が大地から芽吹いたような姿ですが、形態は構造とは無縁ではなく、また外観が、内部空間に率直に対応しています。

完成直後から、大きな話題を呼んだ「輝北天球館」は周辺にない名所となり、県内外から日常的に訪れる公園の景観として定着し、地域社会に貢献する存在となっています。



めいのお 鳴之尾牧場

素敵な景色といえば、鳴之尾牧場も欠かせません。

鳴之尾牧場は恵まれた自然環境のもと、優れた乳用牛を育成するために1966（昭和41）年から牛を放牧している鹿屋市営牧場です。高隈山の南西中腹（鹿屋市有武町）の標高500mに位置し、70.9ha（東京ドームの約15個分）に及ぶ広大な土地を有しています。

広い草原に100頭近い乳用牛が放牧され、雄大な高隈山を背景に赤いトンガリ帽子風の屋根をした研修館の建物とのコントラストは、南国におけるスイスのアルプスのような牧歌的な雰囲気味わいがあり、訪れた人々の心を癒してくれます。





東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプに関する覚書をタイ王国で締結しました。（2018（平成30）年5月）



タイ王国女子バレーボール代表チームが本市で事前合宿を行い、市民による歓迎を受けました。（2018（平成30）年7月）

鹿屋市と国際交流

鹿屋市においては、1980年代のドラゴンボート競技を通じたマレーシア・ペナン州との交流や旧串良町における韓国との交流など、主にアジア諸国との交流が行われてきました。

民間においては、1980年代に「からいも交流」が高隈・串良地域を中心に始まり、世界各地からの留学生が一般家庭で受け入れられました。

近年は市内に在留する外国人の数が増え、多くの技能実習生が市内の民間企業で農業や食品製造業などに従事しながら技術を学ぶとともに、地域の経済を支えています。

このような中、1996（平成8）年に設立された鹿屋市国際交流協会では、青少年の海外派遣支援などの人材育成活動に加え、異文化や日本文化体験を通じた地域における国際交流が行われており、鹿屋市においても国際交流員（CIR）を配置し、国際理解の促進と多文化共生社会の推進に努めています。

088

国際交流

○タイ王国との交流

鹿屋市は、「からいも交流」や鹿屋体育大学を通じてできた縁から、2018（平成30）年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるタイ王国女子バレーボール代表チームのホストタウンに登録されました。

タイ王国バレーボール代表チームによる事前合宿の実施や地域住民との交流、地元高校生によって食材提供やレシピ開発がなされた「食のおもてなし」、小学生らによる応援メッセージの作成など、子ども達を中心となってタイ王国との交流が行われました。

タイ王国女子バレーボール代表チームは、惜しくも東京2020オリンピック競技大会への出場権を獲得することはできませんでしたが、様々な交流活動により芽生えたタイ王国との関係がスポーツ・産業経済・観光・人材育成など多分野に渡る交流に広がっていくことが期待されます。



タイ出身CIRによる異文化理解講座



旧串良町を中心に、1980年代から韓国との交流が続けられています。



旧串良町3小学校と全州北一初等学校の交流。

○韓国との交流

韓国との交流は、1991（平成3）年に南日本子ども大使として全羅北道全州市を訪問した旧串良町の中学生の礼儀正しさに現地の小学校長（当時）の李氏が感心し、旧串良町を訪問したことから始まりました。

李校長の働きかけで、1993（平成5）年に旧串良町3小学校（串良小・細山田小・上小原小）と全州北一初等学校との間で友好親善盟約が締結され、2014（平成26）年に終了するまで、児童・関係者合わせて計846名が参加する交流が行われました。

民間においては、友好団体「李直会」が設立され、学校交流の支援の他、全州市に設立された全羅北道かごしまクラブとの定期的な交流がなされるようになりました。その交流は、現在「串良全北会」に引き継がれています。また、全羅北道完州郡の完州中学校サッカー部が鹿屋市で冬季合宿を行ったり、串良町柳谷町内会（通称：やねだん）が韓国大邱市の企業と交流を行うなど、現在も幅広い交流が行われています。

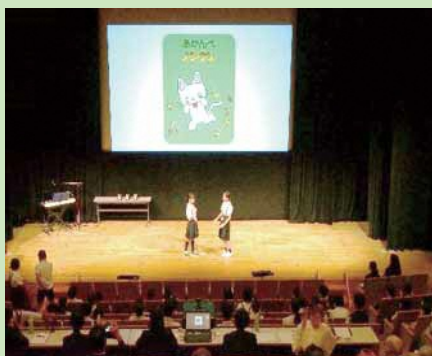
アジア・太平洋農村研修村

農山村と国際化の新たな取組の可能性を期待して、鹿児島県が1994（平成6）年「アジア・太平洋農村研修センター（通称：カピックセンター）」を、鹿屋市が1997（平成9）年「アジア・太平洋農村研修村民族館（通称：民族館）」をそれぞれ大隅湖畔に設置し、「アジア・太平洋農村研修村」が整備されました。

カピックセンターでは、大隅地域の国際交流の拠点として、世界各国からの研修生の受入や地域住民との交流が行われています。また、民族館では、様々な国の民族衣装の試着や楽器の演奏を体験することができ、地域の国際化の進展に寄与しています。



民族館



鹿屋市小中学校英語弁論大会
～小中一貫での開催～



Glocal English Day Camp
～鹿屋市の食でおもてなし～

文部科学省 教育課程特例の変遷

平成17年度
「かのや英語大好き特区」

平成21年度
「教育課程特例措置」認定

平成27年度
教育課程の在り方に関する
調査研究

令和元年度～令和2年度
文部科学省教育課程特例
継続申請

令和3年度～令和4年度
文部科学省教育課程特例
変更手続き

- ・小学校1年生から教科
(英語科)新設
- ・鹿屋女子高等学校にて
国立台北教育大学教育実
習生12人の遠隔教育実習
- ・台湾国立台北教育大学と
鹿屋市教育委員会との協
定【10人の教育対面実
習生受入開始(令和5年
度～)】
- ・台湾9小学校と鹿屋市内
10小学校姉妹校締結

089

英語教育

本市では、平成17年度に「かのや英語大好き特区」の指定を受け、平成19年度に鹿屋市総合計画を作り、「国際性豊かな人づくりの推進」を基本計画の1つの柱に掲げ、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターにおける文化交流、鹿屋体育大学の留学生とのスポーツ交流など、市民・地域、行政が一体となって国際交流を推進し、国際社会に対応できる人材の育成に取り組んでいます。

これまで、県内でも先進的に小学校英語教育を推進してきましたが、平成27年度から市内3小学校が外国語教育強化地域拠点事業の研究指定、さらに平成29・30年度小学校英語に対応した教育課程編成の在り方に関する調査研究の指定を受け、本市の英語教育の在り方について研究・実践を図ってきました。

新学習指導要領が完全実施された令和2年度から、各小学校において本格的に英語科の授業を実施し、4技能5領域に渡るコミュニケーション能力を育成してきました。令和3年度からは、5つの英語教育圏ごとに、研究テーマを設定し、小中一貫で、研究授業や授業研究会を開催し、その成果と課題を鹿屋市の成果と課題として取りまとめ、県内外に対して発信できるように本英語教育圏推進会議の改善を図っています。

令和4年度からは、文部科学省教育課程特例変更



国立台北教育大学との協定
～教育実習生受入れ～



台湾9小学校と鹿屋市10小学校
との協定 ～交流授業～

手続きの承認を受け、小学校1年生から「英語科」として新たに教科を新設し、「グローバル教育推進事業」の推進を図っています。

本事業の目的は、多文化共生都市づくり（英語がすきになるまち 英語でつながるまち）であり、グローバル人材「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒」の育成を目標としています。

具体的には、「郷土の課題解決に貢献する志を持った人材」「郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材」の育成が目標です。

具体策としては、国立台北教育大学教育実習生の受入による研究実践の充実を図ったり、台湾9小学校と鹿屋市10小学校との協定に基づき、遠隔交流や人的交流の推進を図ったりします。コミュニケーション能力の育成を図るためには、言語活動の目的・場面・状況等を明確にする必要があるため、同じように第二言語として英語を学び、時差1時間でのやり取りが可能な台湾との交流は英語を活用する必然性を高める機会となります。

また、多文化共生都市づくりに向けては、グローバル・イングリッシュ・デイキャンプ等において、地域に暮らす外国人や台湾からの実習生等を「おもてなす」という視点を持ち、郷土の魅力を発信したり、協働して世界の問題解決に貢献したりする活動を行っています。

グローバル教育推進事業

- グローバル・イングリッシュ・デイキャンプ
「郷土の魅力を発信」と「国際貢献活動」をテーマに、地域に暮らす外国籍の方々をおもてなしします。
企画・運営には、子ども会や町内会と学校教育課が協働して取り組んでいます。
- ホームステイ
国立台北教育大学教育実習生受入に伴い、受入小学校の保護者等を中心に、ホームステイの受入を行ったり、地域の行事に参加したりする機会を設定し、多文化共生都市づくりの機会をつくり出します。
- 鹿屋市小中学校英語弁論大会
「郷土の魅力」「私の学校」などをテーマに、小中一貫で開催しています。
- 台湾への鹿屋市PR子ども大使派遣
鹿屋市の魅力を発信する小中高生を短期で台湾へホームステイ派遣をします。

町内会の活動



ゴミステーションを管理・運営し、地域の美化が保たれています。



防犯灯を設置し、安全・安心の確保に努めています。

高隈地区 コミュニティ協議会

「高隈の恵みを活かし人々が集う郷づくり」を将来像として、2015（平成27）年に設立しました。

まちづくり部会、事業部会、生活安心部会、スポーツ部会で構成され、高隈地区の地域活性化とコミュニティづくりに日々取り組んでいます。



休耕田を活用した米づくり



鹿児島女子短期大学との事業連携

090

鹿屋市の地域づくり 1

住みよい地域をつくるのは行政の役割ですが、それは行政の一方的な考えでつくるのではなく、市民と行政が意見を出し協力し合い、役割分担をすることで、より良い「地域づくり」ができるものです。

地域の活力（地域力）を向上させるために、市民と行政が「共生・協働」の考えに基づき、より一層の協力関係を構築していくことが重要であると考えられます。

○鹿屋市の共生・協働

今日、私たちが日常的に使う「協働」という言葉は、1980年代から使われはじめ、2000年代に入ると、頻繁に聞かれるようになります。協働という言葉が一般化したきっかけの一つに、1995（平成7）年の阪神淡路大震災が挙げられます。大きな災害を通して、改めて地域に住む人と人との繋がりが、いかに大切であるかが再確認されました。鹿屋市では、さまざまな分野において、町内会や各種団体などの自主的な活動や奉仕作業をはじめ、有形無形の協力を得ながら、共生・協働の市民活動が各地域で行われてきました。これらの市民活動を持続、発展させ、市民による市民のための市政づくりを柱とした市民主体のまちづくりと地域コミュニティの活性化を促進するため、市では、



避難訓練等により、災害が発生したときも地域で助け合う精神が育まれています。



地域のコミュニティづくりや親睦を図るための取組を行っています。

2010（平成22）年に「鹿屋市共生・協働で進めるまちづくり基本方針」を策定しました。

○町内会は「住民自治」の基礎的組織

町内会は、その地域に住む人が気軽に付き合い、日常生活に必要な情報交換や安全確保などを行うとともに、地域での生活をより快適なものにするための、住民に最も身近な自治組織です。2022（令和4）年4月1日現在、鹿屋市には147の町内会があります。

町内会では、防災・防犯などの安全安心なまちづくりや除草や清掃、ごみステーションの管理等の環境美化活動、会員相互の福祉、助け合い活動や交流親睦を図る活動を行うことで、より身近な暮らしの向上に向けた活動に取り組んでいます。

○地域づくりに取り組むコミュニティ組織

地域コミュニティ協議会は、町内会だけでなく、地域にあるその他の市民団体・企業等が地域の身近な課題解決に向けて、一体となって地域づくりを行う組織であり、2022（令和4）年4月1日現在、高隈・吾平・串良・細山田の4地区に設立されています。また、最近では、課題解決の取組をコミュニティビジネスとして行うことで、自分たちで活動資金を稼ぎながら、より良い地域づくりに取り組む、地域コミュニティ協議会の形にこだわらない地域運営組織の立ち上げも進んでいます。

美里吾平コミュニティ協議会

「住んでよし 心やすらく美里吾平」を基本理念として、2014（平成26）年に設立しました。地域づくり部会、暮らし部会、プロジェクトグループで構成され、吾平の課題解決や活性化のため様々な活動に取り組んでいます。



吾平小学校校門坂
ソーメン流し大会



吾平山上陵の四季を楽しむお茶会

まちづくり

PTA活動



市PTA連絡協議会総会

鹿屋っ子JLC



夏休み宿題お手伝い隊

PTA活動

現在小学校23校、中学校12校、高等学校6校、鹿屋養護学校（R5.4より鹿屋特別支援学校に名称変更）1校の計42校があります。このすべての学校が、鹿屋市PTA連絡協議会に加盟しています。

この会では「単位PTA相互間の連絡調整を図ること。

PTA運営の向上と教育の振興に努めること。青少年の健全育成に寄与すること」を目的としています。

令和4年度は「PTAは子どもたちの未来をつくる」

～いま求められていること～をスローガンに、以下の活動に取り組んでいます。家庭力の向上 会員の資質向上 PTA組織運営の改善・充実 子どもの安心・安全の確保 地域活動への積極的参加につながるよう各行事を計画し、参加者を募っています。

今後子どもたちの健全育成を図ることを核にして活動を進めていきます。



091

鹿屋市の地域づくり2

○社会教育関係団体の取組を通じた地域づくり

社会教育関係団体とは、学習・文化・スポーツなど社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とし、その活動を地域文化・スポーツの向上や生活文化の振興、さらには社会福祉の増進につなげ、自主的な運営をする団体です。

【鹿屋市の主な社会教育関係団体】

鹿屋市子ども会育成連絡協議会、鹿屋市青年団協議会、鹿屋市PTA連絡協議会、鹿屋市地域婦人団体連絡協議会、鹿屋市校外生活指導連絡会、鹿屋市中央生活学校、鹿屋市文化協会などがあります。

○「鹿屋っ子クラブ」の活躍による地域づくり

鹿屋っ子クラブは、中学生・高校生のボランティアの団体として平成12年度に発足し、様々なボランティア活動や研修活動を通して、地域社会の発展に寄与する青少年育成を目的に活動しています。

○子ども会の活性化のための「KOKA（コカ）プロジェクト」（かのやオリジナル子ども会アソシエーション）の推進による地域づくり

子ども会は、地域づくり・人づくりの観点から、欠かすことのできない重要なもので、子どもの健全育成に大変有意義であることから、鹿屋市の子どもたち全

子ども会



アドベンチャー事業

子ども会



子ども会大会（創作活動）

員の参加（100%加入）を目指しています。しかし、会員数が年々減少してきている現状があります。そこで、子ども会について全ての市民に関心を持ってもらい、子ども会の活性化を図るため、「KOKAプロジェクト」を令和3年度から推進しています。

KOKAプロジェクトでは、「参加したくなる子ども会」をめざし、全員参加のための方策と子ども会活動の再構築（魅力あふれる未来型活動づくり）について、プロジェクトチームを発足させ、具体的な取組を進めています。主な取組として、子ども会を町内会組織に位置付けることや未加入者に加入してもらうための声掛けや周知、魅力あるプログラムの充実・開発・持続可能な組織や活動内容の在り方の工夫等があります。

以上のような取組により、子ども会活動を通して、地域の子どもは地域で育てることで、これからの地域づくりへとつなげていきます。

○「鹿屋っ子JLC（ジュニアリーダークラブ）」の自主的な活動による地域づくり

令和元年度に発足した中学生・高校生で構成される「鹿屋っ子JLC」は、「子ども会大会」や「アドベンチャー事業」等、子ども会のサポートをしています。

また、定例会で企画を立案し、小学生を対象にした「夏休み宿題手伝い隊」を行うなど、自主的な活動に取り組み、地域に貢献しています。

子ども会活動

子ども会とは、地域の小学生～中学生が集まり組織された団体（単位（校区）子ども会）で、体験活動など様々な活動を行っています。

主な活動（行事）として、十五夜や球技大会、クリスマス会等、地域独自の活動を行っています。市子ども会では、アドベンチャー事業や子ども会のリーダー（インリーダー）になるための「子ども会大会」等を行っています。

子ども会は、自分たちで運営して、やってみたい活動をやりたい活動をやることが大きなテーマとなっています。

皆さんもぜひ、地域の子ども会活動に参加してみてください。



子ども会シンボルキャラクター「にこちゃん」